

ニッコウキスゲ（ユリ科）

観察のポイント

夏の高原を代表する花です。日光や尾瀬などで黄色いじゅたんのようにさく景色をテレビや写真で一度は見たことがあるのではないですか。鼻戸屋付近にはチラホラ見かけます。

ユウスゲ（ユリ科）

観察のポイント

夕方から咲きだして翌日の朝にはしぼんでしまう、夜の間だけ咲く花です。花が明るい黄色なのは暗くても目立つためです。また、おいで花のありかを昆虫に伝えるため、良い香りがします。夕方見つけたらぜひ鼻を近づけて見よう！夜に活動するスズメガなどが花粉を運びます。

エゾカワラナデシコ（ナデシコ科）

観察のポイント

園芸種のカーネーションと似ていますが、仲間は近いけれど別の種類です。八ヶ岳で見られるのはほとんどがエゾカワラナデシコです。カワラナデシコは八ヶ岳より暖かいところにさきます。エゾカワラナデシコは少しガクが短く、花びらの切れ込みが少ないです。

イブキジャコウソウ（シソ科）

観察のポイント

この花を見つけたら手で触ってみて。どんなにおいがするかな。料理に使うハーブのタイムはこの花の近いなかまです。

ヤナギラン（アカバナ科）

観察のポイント

夏の高原を代表する、ピンク色の大変美しい花です。この花は、自分の花の花粉で受粉しないように工夫しています。咲いたばかりの花は男の子、しばらくすると女の子に変身します。おしべとめしべの変化の様子を実際に観察してみよう！

キキョウ（キキョウ科）

観察のポイント

キキョウの仲間はちょっと変わった仕組みがあります。花の咲き始めるころ、おしべはめしべにぴったりくっついていて、このときおしべはそこに花粉を全部つけすぐに枯れてしまいます。やがてその花粉は虫たちに運び去られ、それからようやくめしべが熟し、先端がくると開き、はじめて他の花から花粉を受粉出来るようになります。

タチフウロ（フウロソウ科）

観察のポイント

「立ち」フウロとのことですが、ほっそりした体を隣の草にそっと寄りかけているほうが多いようです。薄いピンクの花びらに、濃い紫色のすじが何本も入った、直径3センチほどの大きめな花を咲かせます。昔は川崎でも咲いていたそうですが、今では見かけることがなくなった花のひとつです。

ヤマホタルブクロ（キキョウ科）

観察のポイント

山地の日当たりの良い草地や林道ぞいに見られます。みんなの住む川崎にもホタルブクロの花が咲きますが、自然の家のそれはヤマホタルブクロと言って、少し標高の高いところに見られます。ヤマホタルブクロはガクのつけ根がふくらとふくらんでいきます。ホタルブクロは、その部分がめくれ上がっています。



ユウスゲ

ユウスゲ (ユリ科)



ニッコウキスゲ

ニッコウキスゲ (ユリ科)



イブキジャコウソウ

イブキジャコウソウ (シソ科)



エゾカワラナデシコ

エゾカワラナデシコ (ナデシコ科)



キキョウ

キキョウ (キキョウ科)



ヤナギラン

ヤナギラン (アカバナ科)



ヤマホタルブクロ

ヤマホタルブクロ (キキョウ科)



タチフウロ

タチフウロ (フウロソウ科)